

米エアリース 1兆円で買収

住商など4社

住友商事と、三井住友ファイナンス&リース子会社で航空機リースを手がけるSMB Cアビエーションキャピタル（SMB C AC）など4社は、航空機リース大手の米エアリースを買収する。買収額は約74億ドル（約1兆1000億円）で、2026年4〜6月期中の買収完了を見込む。買収により、住友商事グループが保有・管理・発注するリース機は計1840機（24年末時点）となり、業界首位のエアキャップ（アイルランド）に迫る規模となる。

エアリースの買収は、下貴雄常務執行役員は住友商事とSMB C AC「周辺のアフターマーケットのほか、投資ファンケットの事業投資も進んだの米アポロ、カナダめ、バリューチェンのブルックフィールドを広げること戦略の共同で実施する。新一つ。力強く下支え会社「スミシヨウエア」し、推進していくのがリース」として再編さ 今回の投資案件だ」とれ、出資比率は住友商事語った。

事が約37・5%、SMB C ACが約25%となる。住友商事は航空SMB C ACが約25%となる。U（戦略事業単位）の事業利益を31年3月期までに300億円超に伸ばす計画だったが、

リース1840機、業界首位迫る

エアリースの買収で目く、コロナ禍などの外標の達成を27年3月期部ショックが起きても前に前倒しする。影響は限定的だ」とい

住友商事などが投資している。他の商社も航空機リース市場の開拓に力を入れている。伊藤忠商事は新たな航空機リース専門会社を設立。丸によると、世界の航空紅は28年3月期までの旅客輸送量は24年から中期経営戦略で航空機43年においても、年平アフターマーケット均3・8割の成長が見込まれる。需要の伸びに注力していく方針を伴い、航空機リース示している。



商社は航空機リース市場の開拓に力を入れている（イメージ）